



濟心光記

この度の震災では、本震からわずか3時間後に派遣命令が発出され、陸海空の自衛官2万6千名が熊本にかけつけてくれました。

その規模もスピードも異例のもので、プロとしてたくましく成長した姿を見る思いでした。

全国様々な地域から派遣されてきた部隊の中に、北海道上富良野町ののぼりを発見！私が10年以上前に勤務した部隊です。北の大地で共に汗を流した仲間たちに、まさか助けてもらう日が来るとは… 本当に胸が熱くなりました。

その感動とお礼の気持ちを伝えたくて、7月上旬の上富良野駐屯地記念行事に参加してきました。大きな任務を終えた隊員たちの清々しい表情に接し、厳しい自然の災禍の中にも、深まりゆく絆があることを、身をもって感じました。



光永くにやす通信 Vol.3



がんばろう熊本!! 熊本地震 特集号

熊本地震から3ヶ月半が過ぎようとしております。被災された多くの皆様方に心よりお見舞いを申し上げます。未曾有の震災の中で、国に対する復興予算の要求や陳情活動に参加し、避難所への給水支援の要請、支援物資の配分や2千5百食を超える炊き出しの調整、あるいは自衛隊父兄会としての安否確認や駆け付けた自衛隊への激励など、手探りの中での活動となりましたが、ありのままの様子を「特集号」としてまとめました。

様々な分野においていまだ復興半ばの状態ですが、今後ともできることを精一杯尽力して参る所存です。引き続きのご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。

光永くにやす後援会(栄光会) 入会募集中

- どなたでも入会することができます。
- お届けいただいた個人情報は会の運営以外には使用いたしません。
- 対話を大切にします。ご連絡いただければご説明に伺います。

お気軽にお問合せ下さい
080-5255-4071



プロフィール

- 生年月日：1955年(昭和30年)1月12日生まれ AB型
- 家族構成：妻、長男(警察官)、二男(自衛官)
- 趣味：クラシック音楽、デジカメ、歴史探索
- 特技：ホルン演奏、柔道初段、銃剣道初段
外国語 韓国語(中級)、英語(初級)、ドイツ語(片言)
- 愛読書：石光真清「城下の人」、海音寺潮五郎「加藤清正」
- 座右の銘：「生き生きとベストを尽くす」

略歴

- 1955年(昭和30年)1月12日 熊本市生 AB型
二人兄弟の長男。父親は自衛官として健軍駐屯地に勤務。
- 1961年(昭和36年)3月 湖東幼稚園卒(熊本市)
- 1967年(昭和42年)3月 健軍小学校卒(熊本市)
- 1970年(昭和45年)3月 湖東中学校卒(熊本市)
- 1974年(昭和49年)3月 済々黌高等学校卒(熊本市)
- 1978年(昭和53年)3月 防衛大学校(神奈川・横須賀)を卒業後、陸上自衛隊に入隊。その後、野戦特科隊員として全国各地で勤務。
- 2002年(平成14年)8月～04年(平成16年)8月 第4特科群長(北海道・上富良野)
- 2009年(平成21年)3月～10年(平成22年)12月 健軍駐屯地業務隊長(熊本・健軍)
- 2010年(平成22年)12月をもって自衛隊退官
- 2011年(平成23年)2月 城彩苑湧々座勤務
- 2015年(平成27年)4月～ 熊本市議会議員(自民党熊本市議団)



スタッフ一同、頑張っています。お近くにお寄りの際はお気軽にお寄りください。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

復旧・復興に向けた調査特別委員会^{*}において質問しました!

質疑を通じ、想定を超える状況の中で懸命に取り組む職員の姿が伝わってくる一方で、参集状況などの未確認、現場における情報収集機能の弱さ、流言飛語に対する不適切な対応、避難所運営の甘さ等、様々な問題点が浮き彫りになりました。「水害防災」を基本にしてきた従来の計画を「地震防災」へと大きく転換することが急務です。また防災訓練のやり方そのものも見直す必要があるでしょう。これからも持ち味を生かして、安全安心の「ふるさと造り」に全力で貢献していきたいと思ひます。 ※第2回「熊本地震からの復旧・復興に関する調査特別委員会」(平成28年6月17日開催)

第2回 復興特別委員会における一問一答(抜粋・要約)

Q 市役所職員に対する安否確認と発災後の参集状況について問う?

(総務局長答弁)「本震においては当日前午8時まで安否確認できた数が2,630人、参集人員は1,358人までしか確認できていない。」

Q 「ライオンが逃げた」という流言飛語にどのように対応したのか?

(政策局長答弁)「ライオンの逃走はもとより、様々な流言が寄せられたが、その都度関係部署に確認を行った。」(光永)「確認するだけでなく、正しい情報を市民に周知することが必要」

Q 自衛隊の給水、給食、入浴などの支援はどのように配分されたのか?

(政策局長答弁)「区役所に連絡幹部を配置し、区の実情や被災者の要望を把握した上で、公平公正に対応した。」

Q 避難所開設マニュアルが機能しなかった要因はなにか?

(政策局長答弁)「今回のような大規模地震災害に対応できていなかったことが最大の要因。今後見直しを図る。」

Q 支援物資の集積から配布において、どのような問題点が生じたか?

(市民局長答弁)「発災直後は、全体的に物資が不足しており、また担当する人員も不足して、十分な物資を避難所に届けることができなかった。また避難所のニーズを的確に把握できず、効率的な集積ができなかった。」

Q 今後の防災計画あるいは防災訓練の見直しに向けての市長としての決意は?

(市長答弁)「当面の課題にまず対応するとともに、外部の有識者を含めた検証部会等を立ち上げ、今回の震災の課題を徹底的に検証する所存。被害想定も含め地域防災計画の見直しに取り組んでいく。」

詳しい内容は「光永くにやす」ホームページをご覧ください。

熊本市議会議員 光永くにやす 事務所

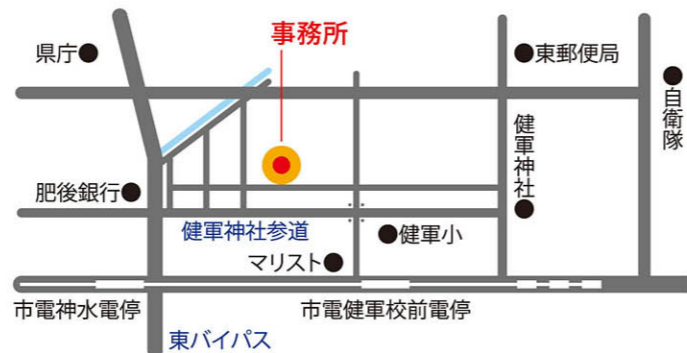
〒862-0911 熊本市東区健軍1丁目19-26

事務所電話: 080-5255-4071



ホームページもあわせてご覧ください。

http://k-mitsunaga.net/



震災の現場に行く



前震で小学校の校庭に避難する人々。強い余震に怯え、南阿蘇火の鳥温泉においては「ライオンが逃げた」などの流言飛語が飛び交う。一種異様な雰囲気にも包まれていた。



岩肌がむき出しになった崩落現場を望む。阿蘇大橋近くにあるコンビニエンスストア駐車場の地割れ。



耐震強度問題なしとされた体育館も、天井の破片などが落ちて来る間は、誰も避難所として利用する者は無かった。



強い縦揺れに、屋根の中央の瓦が弾け飛んだ。



給水

自らの駐屯地も断水する中、献身的に水を届けてくれました。

自衛隊の活動に支えられて



給食

炊事支援の現場では、自衛隊と一緒に活動する子供たちや地域の皆様の姿がありました。



物資輸送

支援物資をただ運ぶだけでなく、作業の精度と速度、届け先におけるニーズの把握など、洗練された活動が目撃されました。



情報収集

拡大する避難所の場所と人員の状況をオートバイで直接確認していました。「情報は足でかせぐ」のが部隊活動の基本です。



全国から駆け付けて各避難所で活動する自衛官を訪ね、激励しました。



様々な支援の形



調理師の方からお米が届けられました。



画図小で行われた大阪シオンウィンドオーケストラの慰問演奏会をお手伝いしました。



在宅のまま介護支援を受けていらっしゃる方に物資を届けました。



自衛隊父兄会の皆さんと一緒に、被災された父兄会会員ならびに自衛官のご家族を激励して回りました。



防災のプロたちとの交流

全国から訪れる自治体の防災担当者や防災関連企業の方々を現地にご案内しました。防災のプロ集団に接し、貴重な意見交換の場にもなりました。



佐藤正久参議院議員とともに益城町指揮所の現場を確認



千葉県松戸市の防災担当者



防災ソリューション(株)の方々 千葉県習志野市の防災担当者

もちろん自分のことも・・・

自助の基本として、水汲み、買い出し、屋根の修理にも精を出しました。



東京都豊島区の防災担当者

